

第94回CIS研究所パートナー会議事録(一般様用)

開催日: 2020年1月26日(日) 場 所: CIS会議室
講 師: 神田 忠起 様
テーマ: キューバの今と昔

キューバの今昔

- 昔、神田がキューバを訪れた時を思い出し懐かしんで回顧のため現在のキューバ情報を集めました。
- 過去の訪問
 - 1) 1975年5月10日～5月23日
一般的取引に関する打合せとキューバ全国(ハバナからサンチャゴ・デ・クーバまで)の市場調査
 - 2) 1978年3月02日～3月19日
パラシオ・デ・Congreso(会議場)の使用打ち合わせ
 - 3) 1978年5月30日～6月11日
仕様書に基づいて仕様確認と見積書提出
 - 4) 1978年9月05日～9月11日
契約締結
 - 5) 1979年5月21日～7月16日
設置工事現場指導
 - 6) 1979年8月22日～9月12日
非同盟国会議立ち合い(トラブル対策のため)

合計115日の滞在



会議風景

キューバの歴史(大まかな時代区分)

1 スペインの植民地時代(1492~1902)

1492年、コロンブスがキューバなどに立ち寄ります。

ヨーロッパ人による「アメリカ大陸」発見

(もちろん、当時はキューバなんていう認識はありません。)

以降、キューバを含む中南米の大半はスペインの植民地と
なっています。

スペインからの独立を求めて、第一次独立戦争

(1868~1878)日本の明治維新と同年です。

スペインからの独立を求めて、第二次独立戦争

(1895~1898)

この独立戦争の時代、文学者・革命家として活躍したのが、
ホセ・マルティ(1853~1895)

2 アメリカの半植民地時代(1902~1959)

アメリカ合衆国はスペインとの戦争でキューバを奪い、

キューバを半植民地として支配します。

1952~1959アメリカの意を汲んだバティスタ独裁政権が続く。

これに対する革命運動を率いたのが、カストロ兄弟、チェ・ゲバラら

1953年7月26日 フィデル・カストロ、ラウル・カストロらが

モンカダ兵営襲撃(7月26日運動)

1956年12月2日 グランマ号で

フィデル・カストロ、ゲバラらがキューバ上陸

1959年1月1日 バティスタ独裁政権崩壊=キューバ革命成功

3 キューバ革命以降(1959~)

1960年 キューバ政府、アメリカ資本の大企業を国有化

1961年1月3日 アメリカ、キューバと国交断交

1961年4月17日 アメリカCIAに支援された亡命キューバ人傭兵

1500人がキューバ南部のピックス湾から侵攻。

反政府軍は19日までに撃退される。(ピックス湾事件)

1961年5月1日 キューバの社会主義宣言。医療・教育の無償化進める。

1962年2月3日 アメリカ、キューバとの通商を全面禁止

1962年10月 キューバ危機(米ソが全面核戦争の一手前状態となる)

2015年7月20日 アメリカ、キューバと国交回復。経済制裁は解除せず。

2016年11月 兄のフィデル・カストロは病气療養中で、政治から退い

ています。弟のラウル・カストロが後継者として働いています。

2016年11月25日 フィデル・カストロ、死去。



グアタナモ基地

- ・ キューバ東南部のグアタナモ湾に位置するアメリカ海軍の基地である。管理者はアメリカ南方軍。面積は116平方キロメートル。1903年以来、アメリカ合衆国がキューバより租借している。
- ・ 2002年から、基地内には対テロ戦争でのアフガニスタンやイラクで拘束した人物を収容するグアタナモ湾収容キャンプが設けられている。
- ・ 1898年の米西戦争でアメリカ軍が占領し、アメリカ合衆国の援助でスペインから独立したキューバ新政府は1903年2月23日、グアタナモ基地の永久租借を認めた。国家主権はキューバにあり、アメリカ合衆国は『租借料』として毎年金貨2,000枚(今日の価格で約4,000米ドル)を支払ってきた。
- ・ キューバ革命によって成立したフィデル・カストロ政権は、アメリカ合衆国の基地租借を非合法と非難しており、租借料は1度受け取った以外は受け取りを拒否している。アメリカ合衆国・キューバ双方が基地周辺を地雷原としていた(アメリカ合衆国側は1996年に撤去)。周囲が地雷だらけで脱走が不可能な上、マスメディアにも実態が見えない海外基地、更にはキューバ国内でもアメリカ合衆国内でもない、国内法でも国際法でもない軍法のみが適用される治外法権区域ということで、20世紀後半からキューバやハイチの難民を、不法入国者として収容した。
- ・ バラク・オバマ大統領は、2008年の大統領選挙において、グアタナモの収容施設を閉鎖すると公約した。しかし、共和党を中心とする議員の反対にあい頓挫した[1]。また、当基地の敷地内にはキューバ国内で唯一、マクドナルドが存在する。

キューバで有名なラテン音楽

グアタナメーラ <https://youtu.be/WI9X07GukQk?t=20>

一般事情(外務省の資料より)

1 面積

- 109,884 平方キロメートル(本州の約半分)

2 人口

- 約 1,148 万人(2017 年:世銀)

3 首都

- ハバナ

4 民族

- ヨーロッパ系 25%,混血 50%,アフリカ系 25%(推定)

5 言語

- スペイン語

6 宗教

- 宗教は原則として自由

7 略史

年	略史
1898年	米西戦争
1902年	独立
1959年	フィデル・カストロ政権成立(キューバ革命)
1961年	米国と外交関係断絶,ピッグズ湾事件
1962年	キューバ危機 米州機構(OAS)が対キューバ制裁決議(除名)
1965年	キューバ共産党結成
1975年	第1回共産党大会,アンゴラ派兵本格化
1976年	新憲法制定,人民権力全国議会発足,カストロ国家評議会議長就任
1979年	非同盟運動諸国首脳会議開催(ハバナ)
1980年	マリエル事件(12万5千人のキューバ難民発生)
1991年	アンゴラ撤兵完了
1992年	憲法改正,米トリチェリ法成立
1994年	米・キューバ移民協議
1996年	米民間機(反カストロ亡命キューバ人団体)撃墜事件 米ヘルムズ・バートン法成立
1998年	ローマ法王キューバ訪問

1999年	第9回イベロアメリカ・サミット開催(ハバナ) エリアン少年事件
2000年	第1回南サミット(G77諸国)開催(ハバナ)
2001年	米国からの食糧購入開始
2002年	カーター米元大統領キューバ訪問
2006年	フィデル・カストロ議長がラウル・カストロ国家評議会第一副議長に権限を暫定委譲 非同盟運動諸国首脳会議開催(ハバナ)
2008年	フィデル・カストロ議長が国家評議会議長職を辞す意向を表明 ラウル・カストロ国家評議会議長就任
2009年	オバマ米政権による対キューバ制裁緩和
2011年	第6回共産党大会, フィデル・カストロ前議長が共産党第一書記退任, ラウル・カストロ議長が同 第一書記就任
2012年	ローマ法王キューバ訪問
2014年	ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)首脳会合開催(ハバナ) 米国との外交関係再構築に向けた議論開始を発表
2015年	米国・キューバ首脳会談(パナマ, 米州首脳会合) 米国との外交関係再開, 相互に大使館を設置 ローマ法王キューバ訪問
2016年	オバマ米大統領キューバ訪問 フィデル・カストロ前国家評議会議長逝去
2018年	ディアスカネル国家評議会議長就任
2019年	新憲法制定 ディアスカネル大統領就任

政治体制・内政

1 政体

共和制(社会主義)

2 元首

ミゲル・ディアスカネル・ベルムデス大統領

3 議会

一院制(人民権力全国議会, 605名), 任期5年

4 政府

(1) 首相

空席

(2) 外相

ブルーノ・ロドリゲス・パリージャ

5 内政

- (1) 1959年, キューバ革命によりフィデル・カストロ政権成立。統治機構は, 国家元首の共和国大統領, 立法機関であり国権の最高機関たる「人民権力全国議会」とそれによって選出される21名からなり, 議会閉会中にその機能を代行する「国家評議会」, 行政府たる「閣僚評議会」, 司法機関たる「人民最高裁判所」から構成。
- (2) 1993年, 初めて直接選挙による人民権力全国議会選挙を開催。全国議会議員の任期は5年。2008年1月, 人民権力全国議会選挙が実施され, フィデル・カストロ議長を含む614名の立候補者全員が当選。
- (3) 2008年2月24日, 人民権力全国議会は, 半世紀近く国家元首の地位にあったフィデル・カストロ国家評議会議長の辞意表明を受け, 同議長の実弟であるラウル・カストロ国家評議会第一副議長を議長に選出。ナンバー2の第一副議長職にはマチャド・ベントゥーラ副議長が選出された。
- (4) 2009年3月, 国家評議会及び共産党政治局は, 11名の閣僚職の解任を発表し, ラウル・カストロ議長就任後最大の閣僚評議会の人事交代を実施。ポスト・カストロ体制の有力な後継者と目されていた若手指導者のラヘ国家評議会副議長及びペレス外相が事実上失脚した(両名ともフィデル・カストロ前議長の長年の側近)。
- (5) 2011年4月, 約13年半ぶりに第6回共産党大会が開催。キューバ経済モデルの変革を目的として, 市場主義経済を部分的に導入すること等を含む「経済社会政策方針」が採択された。また, フィデル・カストロ前議長の共産党第一書記正式退任(ラウル・カストロ議長が第一書記に就任)を含む新執行部人事が行われた。
- (6) 2013年2月, 人民権力全国議会選挙実施。ラウル・カストロ国家評議会議長が再任され, 議会演説において今期(2013-18)を最後に引退する旨公言。また, 国家評議会第一副議長には革命後世代のミゲル・ディアスカネル閣僚評議会副議長が選出。
- (7) 2016年4月, 第7回共産党大会が開催。「急がず, しかし止まらず」に経済社会モデルの現代化プロセスの継続を確認。ラウル・カストロ共産党第一書記, マチャド・ベントゥーラ同第二書記の再任, ディアスカネル国家評議会第一副議長の筆頭政治局員への昇格が決定。
- (8) 2016年11月, フィデル・カストロ前議長が逝去(享年90歳)。11月29日, ハバナで執り行われた葬儀には, 数十万人のキューバ国民が参集したほか, 約60か国の外国要人が参列した(日本からは古屋圭司総理特使が参列)。前議長の遺灰は12月3日のサンティアゴ・デ・クーバ市での葬儀の後, 12月4日にサンタ・イフィニア墓地に埋葬された。
- (9) 2018年4月19日, 人民権力全国議会は引退を表明していたラウル・カストロ議長の後任として国家評議会議長にミゲル・ディアスカネル国家評議会第一副議長を選出。キューバ革命後世代, カストロ兄弟以外の国家評議会議長の選出は初。ディアスカネル議長は就任演説において, 革命路線を維持しつつ, 前政権時代に策定された経済社会政策方針に基づいて国造りに取り組む方針を表明した。
- (10) 2019年4月10日, 新憲法の公布。新憲法は, 同憲法において規定された社会主義制度の撤回不能,

私有財産を含む所有のあり方、外国投資を国の経済発展の重要な要素として促進し保障すること、大統領や首相の新設等を規定した。

(11) 2019年10月10日、人民権力全国議会は、ディアスカネル国家評議会議長を大統領に選出。

外交・国防

1 外交基本方針

- (1) 伝統的に非同盟運動(NAM)諸国との連帯を重視。2006年～2009年7月までNAMの議長国として対途上国外交を積極的に展開。ソ連崩壊後低調だった対露関係も徐々に回復し、ロシア側からは2008年11月にメドヴェージェフ大統領が、2013年7月、2014年7月にプーチン大統領がそれぞれキューバを訪問。キューバ側からは2009年1月及び2012年7月、2015年5月にラウル・カストロ議長がロシアを訪問した。
- (2) ベネズエラ、ブラジル、ボリビア、エクアドル、ニカラグアの現政権とは積極的外交を展開。特に対ベネズエラ関係が1999年のチャベス大統領就任以来緊密化。「米州人民ボリバル同盟」(ALBA)によるラ米諸国の統合を推進。
- (3) 近年、中国との経済関係が強化されており、中国側からは2004年11月及び2008年11月、胡錦濤国家主席が、2014年7月に習近平国家主席がそれぞれキューバを訪問。キューバ側からは2012年7月、ラウル・カストロ議長が、2018年11月、ディアスカネル議長が、それぞれ中国に公式訪問を行った。
- (4) 米国との関係は、カストロ政権成立直後に、米国資本企業を国有化したことを発端に、1961年、外交関係が途絶。1962年、米国はキューバからの輸出入を全面的に禁止し、キューバ経済制裁を開始。これまでキューバは米国に対し、無条件の関係正常化、経済制裁解除、グアンタナモ米軍基地返還を要求。米国は、キューバにおける基本的権利や自由の実現、民主的な選挙、複数政党制、政治犯の釈放等の平和で民主的な移行プロセスが開始されない限り応じない姿勢をとってきた。ブッシュ前大統領は、キューバ制裁措置を強化したが、オバマ大統領は、キューバとの対話を重視し、これまでの米国の強硬な対キューバ路線を変更。2009年4月、キューバ系米国人の家族訪問及び送金に関する制限撤廃等を指示(同年9月実施)。また、2011年1月にも、新たに、学術・教育・文化・宗教目的による米国人のキューバ訪問やキューバ系以外の米国人が、キューバ人に対し一定額まで送金すること等を許可。米・キューバ間の移民協議や二国間の直接郵便サービス再開に関する協議も再開。2014年12月17日、米、キューバ両国は外交関係再構築に向けた議論開始を発表。2015年4月11日、ラウル・カストロ国家評議会議長とオバマ米大統領が、米州首脳会合出席のため訪れていたパナマで国交断絶以来初となる首脳会談を実施。2015年7月20日、両国は外交関係を再開し、相互に大使館を設置。2016年3月20日、オバマ大統領がキューバを訪問。他方、トランプ政権下では、再び対キューバ強硬路線に変更。2019年5月、1996年に制定されたキューバ自由・民主的連帯法(通称:ヘルムズバートン法)において適用が延期されてきた同法第3章(キューバ政府が革命後に接收した米国民資産について取引を行う者に賠償責任を課しており、同資産の請求権を有する米国人に、米国内で損害賠償請求訴訟提起の権利を認めるもの)を全面適用したほか、キューバ制裁リストの追加、渡航制限や米国からキューバに住む親族への送金制限を含む金融制裁等を強化。

2 軍事力

(1) 予算

不明

(2) 兵役

徴兵制

(3) 兵力

49,000人(陸軍3万8,000人、海軍3,000人、空軍8,000人)

(2017年:ミリタリーバランス)

経済

1 主要産業

観光業, 農林水産業(砂糖, タバコ, 魚介類), 鉱業(石油, ニッケル等), 医療・バイオ産業

2 GDP(名目値)

96,851百万ドル(2017年:世銀)

3 一人当たりGDP

8,433ドル(2017年:世銀)

4 経済成長率

0.5%(2016年:国家統計局)

5 消費者物価上昇率

0.6%(2017年:国家統計局)

6 失業率

1.7%(2017年:国家統計局)

7 貿易総額

(1)輸出

14,083百万ペソ(2017年:国家統計局)

(2)輸入

国家統計局)11,309百万ペソ(2017年

8 主要貿易品目

(1)輸出

鉱物(ニッケル), 化学品・医療品, 食料品(砂糖, 水産養殖産品, 魚介類), タバコ

(2)輸入

燃料類, 機械・輸送機械, 食料品

9 主要貿易相手国

(1)輸出

ベネズエラ, カナダ, 中国, スペイン(2017年:国家統計局)

(2)輸入

中国, ベネズエラ, スペイン, カナダ(2017年:国家統計局)

10 通貨

キューバ・ペソ及び兌換ペソ

11 為替レート

1兌換ペソ=1米ドル(公式レート)=24キューバ・ペソ(実勢レート)

1970年代は1米ドル=0.8キューバペソであった

経済概況

(1)ソ連・東欧圏の崩壊で、1990年代前半キューバ経済は大幅なマイナス成長を記録。経済危機を克服するため、キューバ政府は部分的に市場原理に基づく経済改革を導入。その後キューバ経済は1995年以降から回復の兆しを見せ、1990年代後半の成長率は平均4.6%。一時、ベネズエラや中国との緊密な経済関係等を背景に高い成長率を記録したが(12.5%(2006年), 7.5%(2007年)), 国際的な経済危機及びハリケーン被害等により成長率が急速に鈍化し、2009年以降は2~3%程度の成長率に留まっている。

(2)主要産業は観光業, 農業(砂糖, タバコ), 鉱業(ニッケル)等。最近では医療分野(眼科医の海外派遣)にも力を入れている。他方, 国内では格差の拡大や腐敗等の問題が深刻化。

(3)現在ベネズエラがキューバの最大の貿易相手国。キューバはベネズエラから約10万バレル/日の原油を特惠条件で輸入する一方, ベネズエラへの医療サービス提供による収入が増加。近年は原油価格の低下を背景としたベネズエラ経済の悪化により, ベネズエラからキューバへの原油の輸出が減

少し、キューバ経済にも影響。

- (4) メキシコ湾海底油田の推定石油埋蔵量は、46億バレル(米国地質調査所)。同油田鉱区には、スペイン、ノルウェー、ベネズエラ、ロシア、インド、ベトナム、マレーシア、ブラジル等の石油企業が参入しており、2012年5月から試掘が開始されたが、現在まで成功していない。
- (5) 脱ドル化プロセスとして、国営企業間の取引通貨を兌換ペソへ変更(2003年7月)、キューバ国営企業の行う副次的なサービスや製品に対するドル使用の禁止(2004年3月)、国内での米ドル流通禁止(2004年11月)等を実施。
- (6) ラウル・カストロ議長就任以来、プリペイド携帯電話所持、DVD等の電気製品の販売、ホテル宿泊を解禁する等の自由化の動きがみられる他、農業分野では、地方に政策決定権と責任を持たせようとする分権化の動きがある。
- (7) 日本との関係は、1998年3月民間債務リスクに基本合意が成立。公的債務については、2008年10月に短期債務についてリスク合意したものの、その後、再び支払いが滞ったため、2010年8月貿易保険の引受けが停止されたが、2013年5月、再リスク合意され、同年7月から貿易保険引受再開。中長期公的債務については、日本は非ODA債権である貿易保険債権を保有していたが、1986年11月を最後に返済がなく、延滞が発生。2015年12月の対キューバ延滞債務の解消策に関するパリクラブ合意を経て、2016年9月に日・キューバ間で債務救済措置のための書簡の交換が行われ、債務返済が合意された。
- (8) 1982年の外資関連法により、外国企業はキューバとの合併事業が可能となり、1995年9月には100%の外資導入を認めた外国投資法が成立。スペイン、カナダを筆頭に、ホテル、鉱業、石油精製等の分野への投資が進行。2002年には400近い合併企業が稼働していたが、その後は減少傾向。2014年6月、外国投資の保護や外国投資に対する特別税制などを規定した新外国投資法が発効。マリエル開発特区を創設するなど、積極的に外資誘致に乗り出している。

経済協力

1 日本の援助実績

(1) 有償資金協力

なし

(2) 無償資金協力

68.84億円(2017年度までの累計、交換公文ベース)

(3) 技術協力実績

72.54億円(2017年度までの累計、JICA経費実績ベース)

2 主要援助国

- ・ (1) スペイン(2,117.63)
- ・ (2) フランス(78.57)
- ・ (3) 日本(20.48)
- ・ (4) スイス(14.83)
- ・ (5) 米国(5.31)

(2017年、支出総額ベース、単位:百万ドル)

二国間関係

1 政治関係

- ・ 1952年11月21日 外交関係再開
- ・ 1929年12月21日 外交関係開設

2 経済関係

対日貿易(2018年:財務省貿易統計)

(1)貿易額

輸出 18.8億円

輸入 42.8億円

(2)主要品目

輸出 たばこ,非鉄金属鉱,魚介類(えびなど),コーヒー,アルコール飲料等

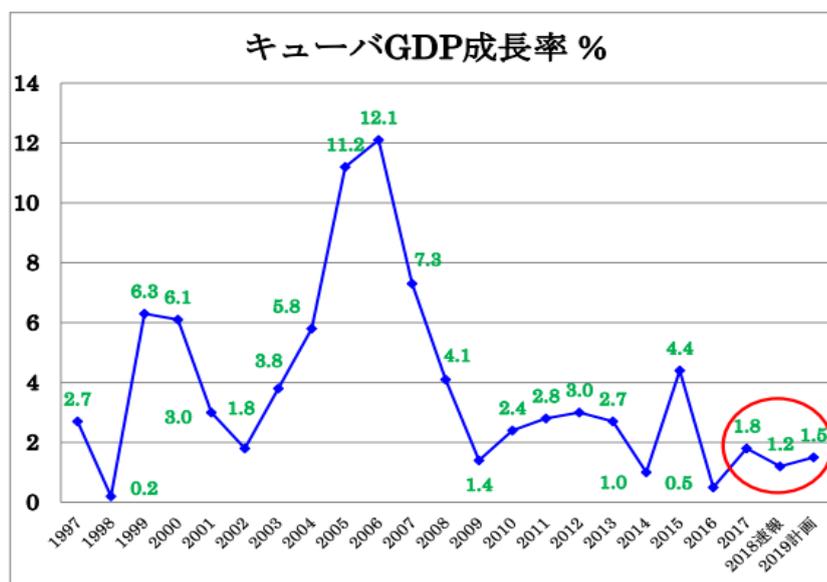
輸入 電気機器(重電機器など),一般機械(事務用機器など),精密機器類(科学光学機器など),ゴム製品等

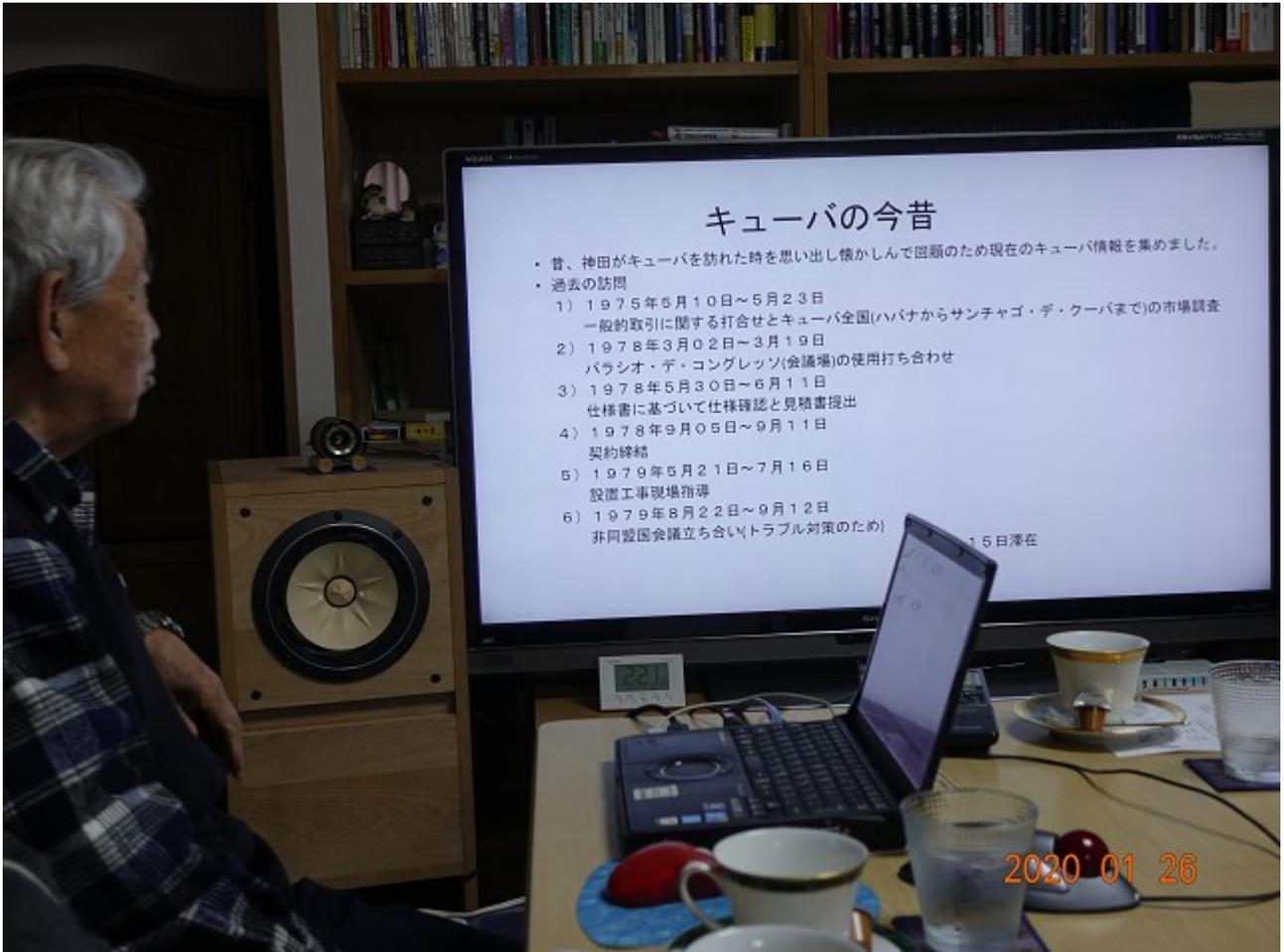
3 文化関係

- ・ 一般文化無償 8 件,計 3.40 億円
草の根文化無償 4 件,計 2,852 万円 (ともに 2018 年度までの累計)
- ・ 1998 年,日本人のキューバ移住 100 周年。キューバ政府と移住日系人は文化事業を中心に記念事業を企画。記念切手の発行,各種文化行事を実施。
- ・ 2004 年,外交関係樹立 75 周年。両国において 12 の文化行事を実施。
- ・ 2009 年,外交関係樹立 80 周年。両国において 40 以上の文化行事を実施。
- ・ 2014 年,日本とキューバとの最初の交流とされる慶長遣欧使節団(支倉常長)キューバ上陸 400 周年。日・キューバ交流 400 年として,日本の伝統文化,ポップカルチャー,和食,音楽,映画,武道等,幅広い事業が行われた。
- ・ 2018 年,日本人のキューバ移住 120 周年。キューバにおいて,現地日系人社会等と共働し,100 を超える文化行事を実施。
- ・ 2019 年,外交関係樹立 90 周年。両国において,日本の伝統文化,音楽,学术交流等,幅広い事業が行われた。

4 在留邦人数

- ・ 90 人(2019 年 5 月現在)(参考)日系人約 1,200 人(1 世~6 世)
- ・ 5 在日当該国人数
- ・ 250 名(2018 年 6 月末現在:法務省)





会議風景

5 最近のキューバ

調査期間: 2019年11月6日(水) - 11月10日(日)





市場視察

【トピックス】

- 日本からハバナまでは乗り継ぎを含めて約 21 時間のフライト。米国経由は不可でありカナダ経由を選択。
- 入国にはビザが必要。(観光)ビザの取得は比較的容易。商用ビザの取得は可能であるが、パスポートに目立つよう貼られると米国に入国し辛くなるとの情報あり。安全な方法として観光ビザを用いて入国。
- 主要産業は観光。観光に対する投資(ホテル建設)や治安維持は進んでいる。観光に訪れるのは主にカナダや欧州諸国の旅行客である。観光客向け、国民向けの二種類の通貨が流通しておりややこしい。
- 医療にも積極投資しており、医者の育成→海外移住→海外での所得→キューバへ還元、が新たな潮流となっている。

これによりキューバが医療大国と呼ばれるに至っている。

- 国民=公務員の平均月収は 3,000 円~5,000 円。教育や医療の無償供給はあるものの所得は低い。
- 長く制裁を受けてきたキューバであるが、オバマ政権時には国交が回復され大型客船や物資が豊富に届けられるようになったが、近年トランプ政権においては再び制裁を強めており、米国からのヒトとモノの流れが途絶えている。出張時もガソリンとトイレットペーパーが市場で不足しているなど供給が不安定である事を目の当たりにした。



革命広場



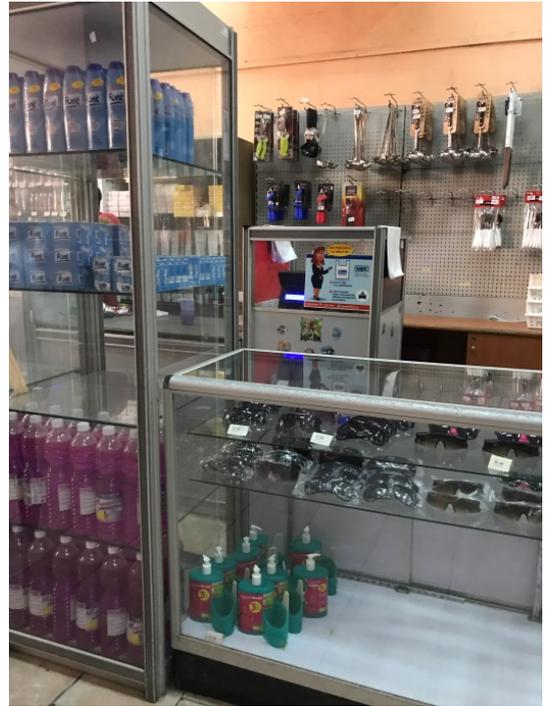
市内の小学校



要塞



ハバナ大学



市内の商店(供給に波があり物資不足)

ハバナ大聖堂 (カテドラル)

ハバナ旧市街に位置するキューバ最大の大聖堂。



1776年建立のバロック建築



会議風景

次に現在のキューバの写真などJTBのパンフレットより

東西に細長い本島と1,600あまりの島や岩礁からなり、美しい海岸線に縁どられています。革命家チェ・



ゲバラや世界中を旅し、釣りとお酒をこよなく愛した文豪アーネスト・ヘミングウェイなしには語れません。アンティーク自動車、コロニアル時代の面影漂う街並み、チェ・ゲバラの肖像やペイントなどが独特な雰囲気を醸し出し、世界の旅人を魅了します。

現在はクラシックカーを観光タクシーとして使用されているようです

・ ハバナ旧市街

エントラダ運河を隔てた4つの要塞に守られ、コロニアル建築、バロック様式の建造物が立ち並びます。世界遺産の一部「モロ要塞」は灯台や牢獄だった時期もありました。「大聖堂」は、左右非対称である2つの塔の造形美により、キューバ・バロック建築の傑作とされています。ヘミングウェイ定宿のひとつ「ホテル・アンボス・ムンドス」のロビーには、写真やサインが飾られ、多くの観光客が訪れます。キューバの名産ラム酒の醸造過程を「ハバナクラブ博物館」で見学したあとは、彼のお気に入りのカクテル「モヒート」や「ダイキリ」を飲みながら、のんびりキューバ時間を楽しんでみてはいかがでしょうか。



バラデロ

約28kmにわたって白砂のビーチが広がり、かつてアメリカの資本家たちがこぞって別荘を建て、優雅なバカンスを楽しみました。現在は、キューバ屈指のビーチリゾートとして世界中から観光客を集めています。

ホテル滞在中の食事や飲み物、アクティビティやチップまで含まれるオールインクルーシブホテルが多くあります。現金を持ち歩く必要がなく、快適な休日を楽しむのも過ごし方のひとつです。



砂浜の砂はパウダーと言われている程細かい砂です

・ キャバレー トロピカール



(40年前頃から存在していた、半屋外のキャバレーヤシの木の下のステージ)

総評:

- 約45年前の状況と現在の状況があまり変化がないのに驚いている。
- 日本はもちろん私のつたない経験からでは信じられない。
- インドネシアに約5年間駐在しましたが、その5年間でも大きく変化した経験があり、ほかの国も出張ベースで行ってもすごく進化しているのに、45年間余り変わっていないとは驚きである。

6 今後の日程と講師依頼

パートナー会議の予定

	講師	開催日
第95回	西村 靖紀 様	2月16日(日)
第96回	生駒 篤一 様	3月29日(日)
第97回	竹内 学様	4月26日(日)

この後は、下記の順でお願いします。

* 講師変更の場合は、早めにご連絡ください。

話題提供担当ローテーション表

生駒 篤一 様 → 神田 忠起 様 → 山本 洋一 → 西村 靖紀 様 →
竹内 学 様 → 中尾 元一 様 → 久米 健次 様 → 寺川 雅嗣 様
→ 以下ローテーション

HP <http://www.cis-laboratories.co.jp/index.html>

以上